

# 日韓両言語の基本形容詞について

両言語の国語辞典を資料として

河 京 植

## I. はじめに

基本形容詞とはどのようなものだろうか。この用語については多少定義の差はあるが、例えば、大島中正「国語辞書における形容詞の語釈の類型」(1992)で、玉村文郎「日本語教育基本2570語」に示されている全形容詞113語を基本形容詞と規定しているのが見られる。さらに上記の用語は、大島中正「基本形容詞の語釈における意味特徴」(1995)の論文においても使っている。

ここでは、『日本語教育事典』(1982)の第3章「語彙・意味」の「語義」に、多義語の構造として「一つの語形には(中略)いくつもの意味が対応している語(すなわち多義語)も非常に多い。特に基本的な単語は大部分が多義語だと言ってもいいくらいである」(下線筆者)と記述しているのを手掛かりにして日韓両言語の国語辞典から多義語である形容詞と「国語研2000語」(1978)に収録されている形容詞(基本形容詞)との一致度及び意味分布の考察を行うことにする。これによって得られる結果を、両方の基本形容詞の範疇を理解し、使用するための資料として活用していただきたい。

## II. 資料と調査方法

### 2.1 資料

金水敏他「辞書の記述」(2000)のなかで「国語辞書のような一般的な辞書は、一般的な言語の使用者の常識に訴えて語義を説明するものである」と述べ、また、大塚みさ(1995)は、国語辞典について「個人の記憶や知識の限界を総括的に補うことができるものであり、見出し語として記載されている語義が、特定の分野に限定されることがない。また、個々の語の語義数を客観的に認定できる、という利点もある」と述べている。このような考えに従い、違った言語体系を持っている両言語の基本形容詞の抽出には、国語辞書が適切な資料だと考えられるわけである。

以下、両言語の国語辞典を用いて比較を行う。

- 『岩波国語辞典』(西尾実他編, 岩波書店, 1994, 5版, 収録語数約62,000)
- 『三省堂現代国語辞典』(市川孝(主幹), 三省堂, 1988, 1版, 収録語数約60,000)
- 『延世韓国語辞典』(延世大学校言語情報開発研究院, 斗山東亜, 1998, 1版, 収録語数約50,000)

まず、これらの辞典のうち『岩波国語辞典』(以下、『岩波』と略する)と『三省堂現代国語辞典』(以下、『三省堂』と略する)から、「こい」という語の意味記述を抽出して以下に示す。

こい【濃い】『岩波』

①色や味の程度が強い。色が深い。味が強い。

②密度が高い。

(ア)液状のもの、主な成分が多い感じだ。(イ)一面にそこをふさいだ様子だ。

こい【濃い】『三省堂』

①色が深い。

④すきまが少なく、こんでいる。

②味がしつこい。

⑤[愛情などが]こまやかだ。

③水分が少なく、成分が多い。⑥その傾向がよい。

両辞典の凡例によれば、『岩波』の意味記述は、①②③のように最も普通の分類をし、これよりさらに細分するときは(ア)(イ)(ウ)のように、また①②③よりも大きな分類が必要なとき(一)(二)(三)のように語義区分を立てている。また、『三省堂』の意味記述は、基本的な意味から、特殊な意味へと並べ、その語義の分類は、主として品詞の違いによって(一)(二)(三)などに分け、その下位に①②③などを置き、さらにその下に(ア)(イ)(ウ)などを置いている。両辞典とも大・中・小の三段階の語義区分を行っていることでほぼ似ている。

実際の調査に当たっては、上に挙げた例のように①②③(ア)(イ)(ウ)の中・小の分類がほとんどであった。ところで飛田良文「国語辞書における形容詞の意味記述」(1998)は、語義記述についての説明の類型として四種類を挙げている。表1はその内容をまとめたものである。

本稿で扱う『岩波』と『三省堂』の意味記述類型は表によると、第三類に属し、他の種類より、「現代語中心のもの」と「多義の場合、現代語の基本的な意味を置くこと」とに特色があり、このような理由で資料として選んだ。玉村(1987)は、現代日本語の研究と教育に必要な辞書及び語彙資料の代表的なもののうち、『岩波』について、「現在一般に用いられている小型辞典のうち、最も内容の充実している辞書で」あり、「語義説明においても、基本義の解明に努め、些末主義に陥ることを避け、基本語の意味・用法の説明に新しい境地を開いた出色の辞典で」と述べている。

一方、韓国の国語辞典としては『延世韓国語辞典』(以下、『延世』と略する)を用い

表1 国語辞書の意味記述類型

類型	主な内容	辞書の例
第一類	時間の軸にそって歴史的に語義を配列する辞書 (古語・現代語含む)	日本国語大辞典, 広辞苑
第二類	現代語の意味と古語の意味に区分して, 現代語は一般的な語義を先にし, 古語は原義から転義へとする辞書(古語・現代語含む)	大辞林, 大辞泉, 角川国語大辞典
第三類	多義の場合は, ①の語義に現代語の基本的な意味をおき, 基本的なものから変化のようすをあとづけられるように並べる辞書(現代語中心のもの)	三省堂国語辞典, 学研国語大辞典, 旺文社国語辞典, 新潮現代国語辞典, 岩波国語辞典, 新選国語辞典
第四類	文の形による語義を大方針とし, 語義の細分化を避け, 多義の場合は, 頻度の高いものから低いものへ配列する辞書。	新明解国語辞典, 必携角川国語辞典

た。『延世』は1960年代以降, 出版された文学作品及び新聞・雑誌から4,300万文節という膨大な資料のうち, 使用頻度14回以上の約50,000語を見出し語として収録している。多様な国語辞典のうち, これを資料として使ったのは, 二つの理由がある。一つは, 現代語中心の辞典であることで, もう一つは, 日本の辞典との比較する上で, 量的・質的に近似しているからである。例えば, 日本の小学館と韓国の金星出版社の共同編集で作られた『ニューエイズ韓日辞典』の序文に, 「(中略)『日韓辞典』の編集にかかった日数のほぼ二倍に達し」たのは, 「韓国語の語彙のうち, 特に形容詞が日本語に比して桁外れに多いためである」(筆者訳)と指摘している。このような語数の差があるため, 両者を比較すると妥当な結論が得られないことになる。

さて, 『延世』では, ローマ数字は原則的に格構造及び文法的な部類が違う時に使われ, 丸の中の数字はそのほかの意味分類に用いられている。また, 丸の中の文字は意味をさらに細分する必要がある時とか用法上の差異などを示す時に使われている。そこで上記の「こい」という語に対応する「짙다」の語釈は次のように記されている。

「짙다」『延世』(以下, 筆者訳)

- ①(服, 色など)が.....      ⑤(濃度, 臭い, 化粧など)が.....  
 ②(霧, 煙, 雲など)が.....      ⑥(傾向, 病色, 人相など)が.....  
 ③(林, 眉毛など)が.....      ⑦(暗さ, 日暮れなど)が.....  
 ④(陰のようなもの)が.....

## 2.2 調査の方法

まず上記の辞典三点から全形容詞を抽出し, それぞれの辞典での語義数により, 二つ以上の意味を持つ語を多義語と定義し, 分類する。各辞典から抽出した多義語の数は, 『岩波』が158, 『三省堂』が253, 『延世』が864である。各辞典別に差があるので, 語義

数順に上位100語を目安とし、語数を制限して分析の対象とする。これらの語と比較対照の基準とする基本形容詞は、『日本語教育基本語彙7種比較対照表』(1982)での基準となった「国語研2000語」(1978)に収録されている形容詞109語である。このような方法で辞典の見出し語に与えられた語義により選定した多義語と基本形容詞とが、どの程度の異同を示し、なお、どのような意味分布を示しているかを分析する。

### Ⅲ．考 察

#### 3.1 各辞典の多義語

##### 3.1.1 『岩波国語辞典』

この辞典の総収録語数は、約62,000であり、そのうち形容詞数は全数の1.08%の667語である。また、この667語を辞典で語釈数2個以上になる多義語と考えられるものは、全形容詞数の29.69%の198語である。ここで語釈数の順に並べると、語釈数が3のところまで累計語数が100になるので、その100語を語釈数が多い順に挙げる。表2のうち、斜体で示したのは基本形容詞と一致する語である。

表2 『岩波国語辞典』の多義語の分布 ( )の数字は語義数である

語釈数	多義語(100語)
7-13	7) 明るい, 荒い, 大きい, 軽い, 近い, 遠い, 低い, 安い 8) 甘い, 薄い, 高い, 早い 9) 堅い 13) 良い [14語]
6	怪しい, 偉い, 辛い, 暗い, 細かい, こわい, 難しい, 緩い [8語]
5	暖かい, おかしい, 重い, 臭い, 黒い, 親しい, 強い, 優しい, 弱い, 若い, 新しい, 汚らしい, 小さい, 鈍い, 古い [15語]
4	青い, 浅い, 熱い, 危ない, 危うい, 卑しい, 遅い, 面白い, 濃い, 心無い, しぶい, しよっぱい, 無い, 苦い, にくい, 深い, 細い, まずい, 丸い, 空しい, いやらしい, 疑わしい, ごつい, 凄まじい, 恥しい, 珍しい, 宜しい, 痛い [28語]
3	厚い, 甘い, うるさい, 聞きづらい, 聞きにくい, きつい, 苦しい, 険しい, 鋭い, 拙い, 生温い, 等しい, 太い, 喧しい, 由無い, 眩い, 勿体ない, 物凄いい, 佻しい, 浅ましい, 淡い, 疎い, 恐ろしい, 可愛い, 汚い, 清い, 快い, 好ましい, 寂しい, 狭い, 手荒い, 手酷い, 悩ましい, 広い, 脆い [35語]

##### 3.1.2 『三省堂現代国語辞典』

この辞典の総収録語数は、約60,000であり、そのうち形容詞数は全数の1.21%の728語である。また、この728語を辞典で語釈数2個以上になる多義語と考えられるものは、全形容詞数の34.75%の253語である。ここでは語釈数の順に並べると語釈数が3のところまで累計語数が101になるので、その101語を語釈数が多い順に挙げる。表のうち、斜体で示したのは基本形容詞と一致する語である。

表3 『三省堂現代国語辞典』の多義語の分布

)の数字は語義数である

語積数	多義語(101語)
7-11	7) 明るい, 暗い, 強い 8) 固い 9) 甘い, 大きい, 軽い, 高い 10) 悪い 11) 良い, 弱い(11語)
6	いけない, 堅い, 汚い, 濃い, 渋い, 小さい, 難しい(7語)
5	重い, 面白い, 遠い, 低い, 太い, 細い, まずい, 若い(8語)
4	浅い, 新しい, 危ない, 怪しい, 粗い, うるさい, 惜しい, 遅い, 恐ろしい, 辛い, きつ い, 黒い, 細かい, こわい, 凄い, 鋭い, たわいない, 近い, とんでもない, 鈍い, 広い, 珍しい, 緩い, 由無い(24語)
3	青い, 赤い, 暖かい, 温かい, 厚い, 熱い, 如何わしい, 息苦しい, 痛い, 卑しい, 薄い, 鬱陶しい, うまい, 麗しい, 偉い, 大人しい, 重たい, お安い, 硬い, 聞きづらい, 厳し い, 清い, 苦しい, 険しい, 心無い, 寂しい, 寒い, 凄まじい, 狭い, 正しい, 拙い, つ まらない, 毒々しい, 情けない, 生臭い, 苦い, はかない, 早い, 酷い, 平たい, 深い, 古い, 骨っぽい, 貧しい, 瑞々しい, 空しい, めでたい, もろい, 喧しい, 優しい, 佻し い(51語)

### 3.1.3 『延世韓国語辞典』

この辞典の総収録語数は、約50,000であり、そのうち形容詞数は全数の5.47%の2,735語である。また、これらの語を辞典で語積数2個以上になる多義語と考えられるものは全形容詞数の31.59%の130語である。ここでは語積数の順に並べると語積数が4のところでは累計語数が130になるので、その130語を語積数が多い順に挙げる。

これまでの調査で明らかになった両言語の国語辞典においてそれぞれの収録語数、形容詞数、多義語数および語義数別多義語の分布の結果を表5に示す。表5の形容詞数の欄を見ると、『岩波』と『三省堂』それぞれの数は、667語と728語である。収録語数に対し、占める比率は1.08%と1.21%でほぼ同率であることが分かる。一方、『延世』の場合は2,735語(5.47%)であり、形容詞のみの比較においては前二者の約5倍になることが分かる。このことから韓国語の形容詞は比率が日本語の場合より多いことが明らかである。また、比率(c/b)の欄を見ると、それぞれの比率が29.69%, 34.75%, 31.59%であり、大差がないことが分かる。それから、語義数別多義語の分布欄において、『岩波』の100というのは語義数3から13までの語数を示すものである。

### 3.2 基本形容詞との比較

先の2.2で述べたように、「国語研2000語」(1978)に収録されている形容詞109語を基本形容詞とし、これらの語と3.1のそれぞれの辞典の多義語のうち、語積の数が多い順に100から130語を採って、それらを比較する。まず、参考までに上記の基本形容詞(109語)を表6に挙げる。これらの語と各辞典の多義語との一致度を語義数別にまとめたのが表7である。表7によると、両方ともに語義の数が多ければ多いほど基本形容詞との一致度が高くなる傾向があるようである。日本の『岩波』、『三省堂』は基本形容詞

表4 『延世韓国語辞典』の多義語の分布

( )の数字は語義数である

8-27	<8>바르다(正しい), 그렇다(そうだ), 험하다(険しい)<9>깨끗하다(清らかだ), 옳다(正しい), 날카롭다(鋭い)<10>밝다(明るい), 없다(ない), 같다(同じだ), 굵다(太い), 높다(高い)<11>거칠다(粗い), 깊다(深い)<12>세다(強い)<13>굵다(奇麗だ)<14>작다(小さい)<15>있다(ある)<17>크다(大きい)<27>좋다(よい)<19語
7	무섭다(怖い), 어둡다(暗い), 행하다(よく通じている), 가깝다(近い), 무겁다(重い), 시원하다(涼しい), 잔잔하다(静かだ), 짙다(濃い)<8語
6	그러하다(そうだ), 든든하다(固い), 발다(けちだ), 빠르다(速い), 약하다(弱い), 흐릿하다(少し曇っている), 어렵다(難しい), 실하다(丈夫だ), 가늘다(細い), 가볍다(軽い), 길다(長い), 단단하다(丈夫だ), 둔하다(鈍い), 부드럽다(柔らかい), 새까맣다(真っ黒だ), 시원스럽다(さっぱりしている), 시퍼렇다(真っ青だ), 짧다(短い), 화려하다(華麗だ)<19語
5	감감하다(遙かに遠く漠としている), 급하다(急だ), 답답하다(重苦しい), 뻑뻑하다(ぼそぼそしている), 뻑뻑하다(非常に濃い), 멀다(遠い), 쉽다(易しい), 흰하다(薄明かるい), 걸다(肥沃だ), 고약하다(不快だ), 까맣다(真っ黒い), 낮다(低い), 맑다(清い), 분명하다(明らかだ), 빈틈없다(隙間がない), 신통찮다(思わしくない), 억세다(頑丈だ), 얇다(薄い), 조용하다(静かだ), 좁다(狭い), 허술하다(さびれている, 見窄らしい), 훌륭하다(素晴らしい), 흐리다(はっきりしない)<23語
4	강하다(強い), 까맣다(遙かに遠い), 부엌다(不透明だ), 뻥하다(ほの明るい), 새롭다(新しい), 시원찮다(思わしくない), 쓰다(苦い), 아득하다(果てしなく遠い), 어지럽다(目まぐるしい), 우습다(可笑しい), 익다(慣れている), 잘나다(優れている, 賢い), 덩뭉하다(さっぱりしない), 후하다(厚い), 순하다(大人しい), 어림없다(とんでもない), 차분하다(物静かだ), 퍼렇다(青い,やや濃いめの青い), 푸근하다(仄々とした柔らかい, 暖かい), 걸쭉하다(非常に濃い), 굵다(固い), 귀하다(貴い), 그득하다(一杯だ), 끈끈하다(べとべとする), 눅다(柔らかい), 다르다(違っている), 대단하다(甚だしい), 독하다(きつい), 둔중하다(鈍重だ), 둥글다(丸い), 말짱하다(眞新しい), 맵다(辛い), 맹랑하다(とんでもない), 메마르다(やせている), 모질다(むごい), 묘하다(妙だ), 무디다(鈍い), 반반하다(平らだ), 부실하다(不實だ), 뻣뻣하다(こちこちに強張っている), 뽀족하다(細くなって尖っている), 사납다(荒々しい), 섬세하다(繊細だ), 싱겁다(水っぽい), 씨늘하다(ひやりとする), 얕다(浅い, 低い), 멀다(浅い, 薄い), 예리하다(鋭い), 은근하다(慇懃だ), 자유롭다(自由だ), 잘다(細かい), 질기다(丈夫だ), 질펀하다(廣々としている), 짱짱하다(頑丈でがつしりしている), 투명하다(透明だ), 폭넓다(幅廣い), 허하다(虚弱だ), 헤프다(減りやすい, 無駄だ), 화근하다(急に熱氣を帯びる様子), 후준근하다(くたくただ), 흐리터분하다(はっきりしない)<61語

表5 国語辞典の形容詞数と多義語の分布

( )の数字は語義数の範囲を示す

	収録語数 (a)	形容詞数 (b)	比率 (b/a)	多義語数 (c)	比率 (c/b)	語義数別多義語の分布		
岩波	62,000	667	1.08	198	29.69	10(3-13)	19(2-13)	
三省堂	60,000	728	1.21	253	34.75	10(3-11)	25(2-11)	
延世	50,000	2,735	5.47	864	31.59	13(4-27)	30(3-27)	864(2-27)

表6 基本形容詞(109語)

青い, 赤い, 明るい, 浅い, 暖かい, 新しい, 熱い, 厚い, 篤い, 危ない, 甘い, 有難い, いい, いいけない, 勇ましい, 忙しい, 痛い, 薄い, 美しい, うまい, 羨ましい, うるさい, 嬉しい, 偉い, おいしい, 多い, 大きい, 可笑しい, 惜しい, 遅い, 恐ろしい, 大人しい, 重い, 面白い, 固い, 悲しい, 辛い, 軽い, 可愛い, 可愛らしい, 黄色い, 汚い, 厳しい, 臭い, 悔しい, 暗い, 苦しい, 黒い, 詳しい, 濃い, 細かい, 怖い, 寂しい, 寒い, 四角い, 親しい, 渋い, 白い, 少ない, 涼しい, 酸っぱい, 素晴らしい, ずるい, 鋭い, 狭い, 高い, 正しい, 楽しい, 小さい, 近い, 冷たい, 強い, つらい, 遠い, ない, 長い, 懐かしい, 苦い, 憎い, 難しい, 眠い, 激しい, 恥ずかしい, 早い, 低い, 等しい, 広い, 深い, 太い, 古い, ほしい, 細い, まずい, 貧しい, 真っ白い, 丸い, 短い, 難しい, 珍しい, めでたい, 優しい, 易しい, 安い, 易い, 柔らかい, 宜しい, 弱い, 若い, 悪い
--

表7 基本形容詞と各辞典の多義語との一致度

『岩波』(100)			『三省堂』(101)			『延世』(130)		
語義数	語数	一致数	語義数	語数	一致数	語義数	語数	一致数
7-13	14( 14)	13( 13)	7-11	11( 11)	11( 11)	8-27	19( 19)	12( 12)
6	8( 22)	6( 19)	6	7( 18)	6( 17)	7	8( 27)	6( 18)
5	15( 37)	13( 32)	5	8( 26)	8( 25)	6	19( 46)	9( 27)
4	28( 65)	17( 49)	4	24( 50)	15( 40)	5	23( 69)	5( 32)
3	35( 100)	13( 62)	3	5( 101)	25( 65)	4	6( 130)	17( 49)

( )の数字は累計語数を示す

に対し、前者が62%、後者が64.36%を示している。一方、『延世』の場合は、37.69%に過ぎないことが分かる。これは、表4の『延世』の多義語の分布で韓国語の形容詞に対応する日本語の訳語は、形容詞だけでなく、形容動詞をはじめ句、連語などにもなるからである。このことについては、形容動詞も含めて今後の課題にしたい。

### 3.3 意味分布

ここでは、3.1でそれぞれの辞典から抽出した多義語を『分類語彙表』にしたがって分類コードを当てて分類してまとめる。表8から、両言語の多義語の意味分布において、日本語の場合は、3.1の「抽象的關係」、3.3の「精神及び行為」、3.5の「自然現象」の順で減る。一方、韓国語の場合は3.1、3.5、3.3の順となり、日本語と違った傾向が見られる。さらに表8を「分類語彙表」の「相の類」の分類コード別にまとめなおしたのが表9（ここでは分布4語以上に限った）である。この表9によると、両

表8 基本形容詞と多義語の意味分布 ( )の数字は%

	3.1	3.3	3.5	計
基本形容詞	49(44.95)	35(32.11)	25(22.94)	109
『岩波』	49(49.00)	32(32.00)	19(19.00)	100
『三省堂』	49(48.51)	28(27.72)	24(23.76)	101
『延世』	64(49.23)	28(20.00)	40(30.77)	130

言語とも3.1920の「長い・広い」の項目が最多であることが分かる。これに続くのが、日本語の場合、3.1921の「厚い・太い・大きい」の項目であるが、韓国語の場合は3.506の「材質」の項目である。

表9 基本形容詞と多義語の意味番号別分布

基本形容詞(109)		『岩波』(100)		『三省堂』(101)		『延世』(130)	
度数	分類番号	度数	分類番号	度数	分類番号	度数	分類番号
10	3.1920	8	3.1920	8	3.1920	14	3.1920
8	3.1921		3.1921	7	3.1921	11	3.506
7	3.502	7	3.14		3.3011	10	3.182
	3.3011		3.302	6	3.14	9	3.1921
	3.302	6	3.182		3.182	8	3.501
	3.505	5	3.3011		3.506	6	3.14
6	3.515		3.505	5	3.502	5	3.12
	3.132		3.506	4	3.12	4	3.502
5	3.3012	4	3.515		3.505		3.505
4	3.133				3.515		3.515
							3.584

表9の分類をしぼるために、玉村(1976)の分類コードの末位を除外して上位3桁でグループ別にしたのが表10である。

表10 基本形容詞と多義語のグループ別分布

基本形容詞(109)			『岩波』(100)			『三省堂』(101)			『延世』(130)		
見出し	分類番号	語数	見出し	分類番号	語数	見出し	分類番号	語数	見出し	分類番号	語数
数・度量衡	3.19	18	数・度量衡	3.19	16	数・度量衡	3.19	15	五感	3.50	27
五感	3.50	13	意識・情緒・判断	3.30	12	五感	3.50	15	数・度量衡	3.19	23
意識・情緒・判断	3.30	17	五感	3.50	9	意識・情緒・判断	3.30	7	形状・表面	3.18	10
程度・良否・調子	3.13	9	機力	3.14	7	機力	3.14	6	機力	3.14	6
水・火・気	3.51	6	形状・表面	3.18	6	形状・表面	3.18	6	存否・必然・可能	3.12	5
			水・火・気	3.51	4	存否・必然・可能	3.12	4	水・火・気	3.51	4
						水・火・気	3.51	4	生育・健康	3.58	4

こうしてみると、日本語の場合は、三資料とも3.19の「数・度量衡」に厚く分布し、そのあと3.50の「五感」、3.30の「意識・情緒・判断」と続く。これに反して、韓国語の場合は3.50の「五感」、3.19の「数・度量衡」の順で3.5の「自然現象」がほかの分類項目より多いことが分かる。また、全体として両言語の形容詞は、ともに3.1の「抽象的關係」の分野がほかの分野より多少厚く分布することがみとめられる。



## Ⅳ．まとめ

以上、両言語の国語辞典から多義語である形容詞と「国語研2000語」に収録されている形容詞とを抛り所にして、両者の異同がどの程度であり、これらの語が意味的にはどのように分布しているのかについて考察をした。最後にその結果を要約しておこう。

「基本形容詞」と多義語との一致度は、語義数が多ければ多いほど高くなる。辞典別の一一致度は、『岩波』が62%、『三省堂』が64.36%であり、『延世』の場合、37.69%に過ぎないことが分かった。これは、韓国語の形容詞に対応する日本語の訳語が形容詞だけでなく形容動詞、句、連語などにもなるからである。一方、意味分布は日本語の場合は、3.1, 3.3, 3.5の順であるが、韓国語の場合は、3.1, 3.5, 3.3の順である。また、両者ともに3.1920の項目が最も多い。分類コードを上位3桁までにしてまとめたグループ別分類から見ると、日本語の場合は、3.19の「数・度量衡」に厚く分布し、韓国語の場合は、3.50の「五感」に厚く分布している。

今後は、ここで得られた結果を基に、形容動詞を含めた基本形容語群について、同様の調査をしたいと考えている。

なお、本稿は2000年9月に同志社国語学研究会で発表した内容に基き、加筆、修正したものである。発表の際、藤井俊博先生、大島中正先生、泉文明先生から貴重なご意見をいただいた。また本稿の執筆にあたっては、玉村文郎先生にご指導いただいた。末筆ながらここでお礼を申し上げたい。

### (参考文献)

- 玉村文郎(1976)「現代形容語彙の構造 「分類語彙表」の「相の類」の分析」『同志社国文学』11』
- 西尾寅弥(1982)「語義」『日本語教育事典』第3章「語彙・辞書」大修館書店
- 玉村文郎(1987)日本語教師養成通信講座『日本語の語彙・意味2』アルク
- 飛田良文(1988)「辞書」『日本語百科大事典』第7部XX「ことばの管理と処理」大修館書店
- 大島中正(1992)「国語辞書における形容詞の語釈の類型」『同志社女子大学学術年報』第43号
- 大島中正(1995)「基本形容詞の語釈における意味特徴」『同志社女子大学日本語日本文学』第7号
- 大塚みさ(1995)「国語辞典における多義語の量的傾向」『計量国語学』第19巻第8号
- 飛田良文(1998)「国語辞書における形容詞の意味記述」『言語』大修館書店
- 金水敏・今仁生美(2000)「意味」の意味」『意味と文脈』岩波書店

(資料)

1. 西尾実他編,『岩波国語辞典』第五版,岩波書店,1994
2. 市川孝(主幹)他『三省堂現代国語辞典』三省堂新辞書パックIIのCD-ROMに収録,1996
3. 延世大学校言語情報開発研究院『延世韓国語辞典』1版,斗山東亜,1998
4. 国立国語研究所『日本語教育基本語彙7種比較対照表』大蔵省印刷局,1982
5. 国立国語研究所『分類語彙表』秀英出版,1964
6. 金星出版社・小学館『ニューエイイス韓日辞典』初版,金星教科書,1994